

今日のゴール

★ 5分類のホームポジションを覚える

2 左右は一致することを理解する

3 簿記の流れを理解する

SECTION 01

簿記とは、ルールがある家計簿のこと

簿記とは、会社や個人事業の取引を記録（仕訳）し、財産（貸借対照表）ともうけ（損益計算書）の集計を行うことです。

集計した結果を何に使うか

- ① 経営に役立てる（会社の状態を把握して意思決定する）
- ② 関係者に報告する（税務署・銀行・株主などへ開示する）

SECTION 02

仕訳とは何か

仕訳とは、①何が ②いくら ③増減したを記録するものです。

例①) 商品を100円で売り、現金で受け取った。

借方（左）	貸方（右）
現金 100	売上 100
①現金が②100円③増加	①売上が②100円③増加

⚖️ 左右の金額は必ず一致する

例②) 商品を100円で仕入れ、現金で支払った。

借方（左）	貸方（右）
仕入 100	現金 100
①仕入が②100円③増加	①現金が②100円③減少

⚖️ 左右の金額は必ず一致する

このように取引をルールに則って記録することで、あとから集計しやすくなります。

「現金」「売上」のような統一された名前のことを勘定科目といいます。

SECTION 03

勘定科目は5つに分類される

5分類	内容	ホームポジション	載る表
資産	会社の財産	借方（左）	貸借対照表
負債	会社の支払義務	貸方（右）	貸借対照表
純資産	資産と負債の差額（純粋な財産）	貸方（右）	貸借対照表
収益	会社の稼ぎ	貸方（右）	損益計算書
費用	会社のコスト	借方（左）	損益計算書

SECTION 04

貸借対照表とは

財産の内訳を示すもの

貸借対照表 (B/S)	
資産 現金、売掛金、建物 など	負債 借入金、買掛金 など
	純資産 資本金 など
⚖️ 左右の金額は必ず一致する	

資産 = 負債 + 純資産

負債 = 資産 - 純資産

純資産 = 資産 - 負債

SECTION 05

損益計算書とは

利益の内訳を示すもの

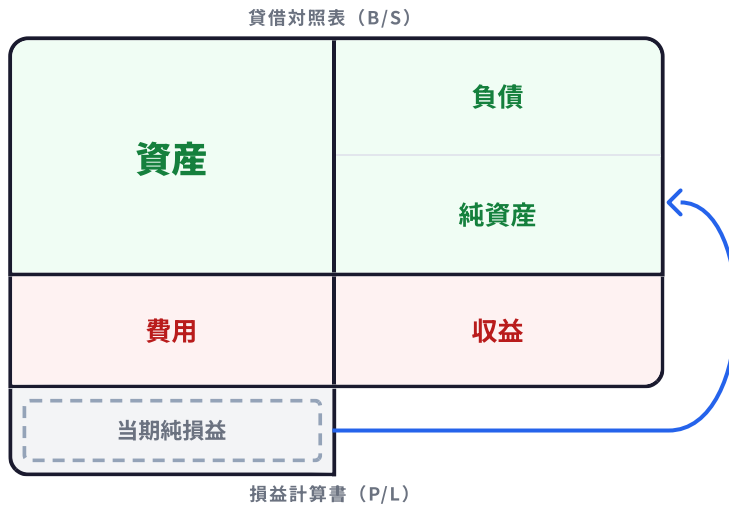
損益計算書 (P/L)	
費用 仕入、給料 など	収益 売上、受取手数料 など
当期純損益 収益 - 費用	
⚖️ 左右の金額は必ず一致する	

収益 - 費用 = 当期純損益

SECTION 06

貸借対照表と損益計算書の関係

仕訳で記録した取引は2つの表に集計されます。損益計算書は貸借対照表の純資産の増減を説明する表です。



損益計算書は、貸借対照表の純資産の増減要素である

期末純資産 - 期首純資産 = 当期純利益

確認問題

貸借対照表と損益計算書の相互関係

□に入る金額を計算しなさい。(単位：円)

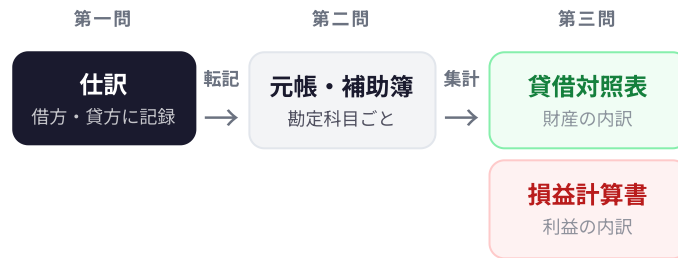
項目	パターンA	パターンB	パターンC	パターンD	パターンE
期首純資産	30,000	50,000	40,000	35,000	45,000
期末資産	120,000	200,000		150,000	100,000
期末負債	50,000		60,000	90,000	70,000
期末純資産					
収益	85,000	90,000	70,000		40,000
費用		60,000	50,000	40,000	
当期純損益					

項目	A	B	C	D	E
期末資産	120,000	200,000	120,000	150,000	100,000
期末負債	50,000	120,000	60,000	90,000	70,000
期末純資産	70,000	80,000	60,000	60,000	30,000
収益	85,000	90,000	70,000	65,000	40,000
費用	45,000	60,000	50,000	40,000	55,000
当期純損益	40,000	30,000	20,000	25,000	▲15,000

SECTION 07

簿記の一連の流れ

仕訳で記録した取引は転記・集計され、最終的に貸借対照表・損益計算書にまとめられます。試験の問題構成と対応しています。



元帳とは

勘定科目ごとの集計表です。
貸借対照表・損益計算書の中身を確認したいとき、仕訳をすべて遡るのは大変です。そのために、勘定科目ごとの内訳が一覧できる元帳が必要になります。

元帳のイメージ（現金）

現金				
4/1	前期繰越	100,000	9/30 仕入	60,000
			3/31 次期繰越	40,000
		100,000		100,000

MEMO

現代の会計システムでは、仕訳をすると転記・集計まで自動で行われる。貸借対照表や損益計算書の各勘定科目をクリックすれば元帳が、元帳の明細をクリックすれば仕訳が確認できるようになっている。

つまり仕訳さえ正しければ全てが完結する。だからこそ、この流れ全体を知っておくことが大切。

今日のまとめ

★ 5分類のホームポジションを覚える

借方（左）

資産・費用

貸方（右）

負債・純資産・収益

2 左右は一致することを理解する

仕訳：借方合計 = 貸方合計

貸借対照表：資産 = 負債 + 純資産

損益計算書：費用 + 当期純損益 = 収益

3 簿記の流れを理解する

仕訳 → 転記 → 元帳・補助簿 → 集計 → 貸借対照表・損益計算書